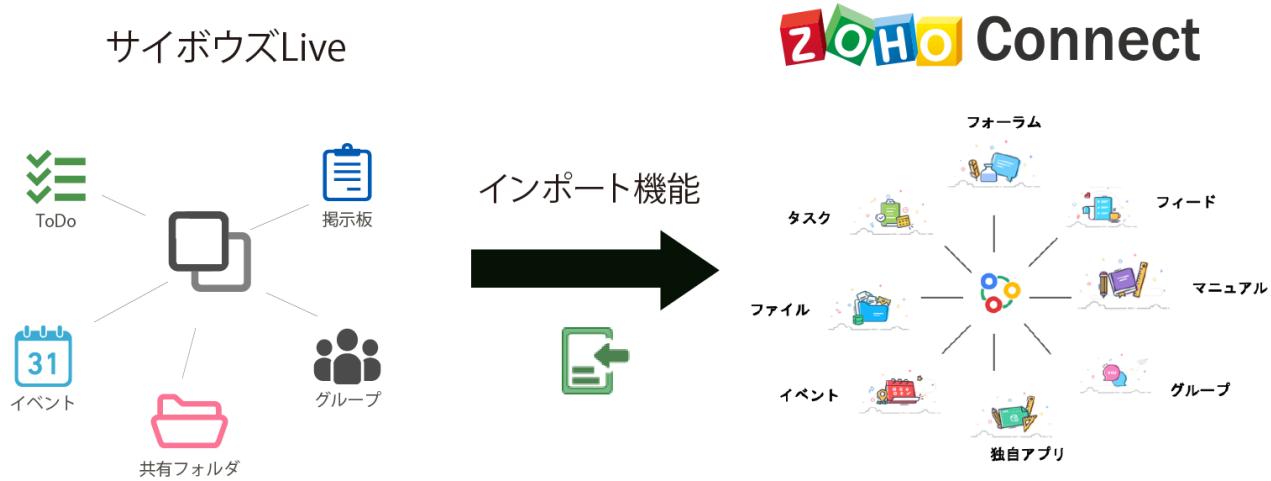


2019年4月終了の「サイボウズ Live」 200万人のユーザー救う 無期限で無料利用できるグループウェア データも簡単に移行 「Zoho Connect」へのデータインポート機能 9月27日提供開始

ゾーホージャパン株式会社（代表取締役：迫 洋一郎、本社：神奈川県横浜市）は、2019年4月15日にサービス提供を終了する「サイボウズ Live」のデータを、ゾーホージャパンが提供するクラウド型グループウェア「Zoho Connect」に移行できる新機能「サイボウズ Live データのインポート機能」を、2018年9月27日から無料で提供します。

新機能ではユーザー や グループ、イベント、ToDo リスト、共有フォルダから掲示板での過去のメッセージのやりとりまで「サイボウズ Live」上の登録情報を「Zoho Connect」に3ステップでインポートでき、サービス切り替え時のデータ移行の手間を大幅に低減します。「Zoho Connect」は、「サイボウズ Live」の基本機能である“チャット”、“イベント”、“ToDo リスト”、“掲示板”、“共有フォルダ”的機能に相当する、“チャット”、“予定”、“タスク”、“フォーラム”、“ファイル”的機能を備え、最大 15 グループまで無期限無料で利用できます。

さらに、「Zoho Connect」ならではの機能として、通話、ファイルの共同編集、マニュアル作成、独自アプリ作成や他社サービス連携なども同時に利用できるため、「サイボウズ Live」上の既存のデータを手間なく移行できるだけでなく、グループ内でのコミュニケーション方法や共同作業の幅が広がります。



■200万人超の「サイボウズ Live」難民のスムーズなデータ移行を無料で支援

今回の新機能では2019年4月15日にサービス提供が終了すると発表された「サイボウズ Live」のデータ移行が手間なく行えます。『Zoho Connect』は「サイボウズ Live」のサービス提供終了発表後からその代替となるグループウェアとして問い合わせの数も増えています。

ゾーホージャパンは200万人を超える「サイボウズLive」ユーザーに対して、ゾーホージャパンの持つ無料のグループウェアを代替サービスとして提供することに大きな社会的意義を感じ、専用の新機能「サイボウズLiveデータのインポート機能」を開発しました。グローバルサービスである「Zoho」に地域限定的な専用機能を開発することは異例の対応でした。

「サイボウズLiveデータのインポート機能」は、サービス切り替え時にかかるデータ移行作業の手間を軽減します。本機能の提供開始時には、データ移行手順や両サービスの機能の共通点/相違点を解説する「サイボウズLive→Zoho Connect移行ガイド」の提供も予定しています。

移行後は15グループ以内であれば、「サイボウズLive」と同等の機能を備えた「Zoho Connect」無料プランを利用できます。さらに、40を超えるサービス群を提供する「Zoho」の特長の1つである多様なサービス間連携により、同一の「Zohoアカウント」で無料メールの利用、チャットや音声・動画による通話、ファイルの共同編集、マニュアル作成、独自アプリの作成なども可能です。チャットやフィード、フォーラムやマニュアル、独自アプリなど、グループ内でユーザーがその都度目的に合った連絡方法を柔軟に選択でき、コミュニケーションを円滑に行えます。さらに、他社サービスとの連携も可能でデータ共有の幅も広がります。

「サイボウズLiveデータのインポート機能」 概要

■移行可能データ

サイボウズLive	→	Zoho Connect
メンバー	→	ユーザー（※Zohoにアカウント登録）
グループ	→	グループ
イベント	→	予定（フィードにも投稿）
ToDoリスト	→	タスク
掲示板	→	フォーラム
共有フォルダ	→	ファイル

■制限事項

- ・チャットの履歴は移行できません
- ・無料プランで利用できるグループ数は15まで

■利用料金

無料（無期限）

※15グループを超える場合は、有料プランを利用可能

■機能提供開始日

2018年9月27日（木）

「Zoho Connect」移行によって広がる機能

- ・フィード：更新情報の表示。SNS のように文字や画像/ファイルの投稿、いいね！やコメントなどスレッド形式でやりとり可能
- ・共有範囲の柔軟な制御：グループ単位のほか、“@メンション機能”によりスレッド単位でも共有可能
- ・音声/動画による通話：チャット画面では文字や絵文字のやりとりのほか、音声通話や動画通話が可能（※注 1）
- ・ファイルの共同編集：ドキュメントの閲覧のほかリアルタイムの共同編集が可能。変更履歴も保存可能（※注 2）
- ・カンバン形式のタスクボード：優先度やステータスに限らず自由な定義でグループのタスクを見やすく分類可能
- ・マニュアル作成：ノウハウやルールなどの固定的な情報を蓄積するためのウィキの共同作成が可能
- ・独自アプリ作成：ウェブフォームとレポートがセットとなったデータベースアプリをゼロから自由に作成可能
- ・サービス連携：Zoho サービスのほか、Google Drive や Trello、Asana、Zapier など他社サービスとも連携可能

※注 1：モバイル利用時には、別途「Zoho Cliq」アプリのインストールが必要です。

※注 2：モバイル利用時にはファイル機能を利用できません。

■「Zoho Connect」について

チャットもできるグループウェア「Zoho Connect」は、組織内や外部の関係者のコミュニケーションとコラボレーションを支援するクラウド型ソフトウェアです。人だけでなく情報やサービスも「Connect（つなげる）」します。国内では、一般の方から NPO、組合や協会、教育機関、様々な業種の一般企業の方まで数千ユーザーに利用されています。

プロジェクトやチームごとのアイデア共有や話し合い、マニュアルや情報の共有、作業効率化のための独自アプリ作成など組織の様々な“モノ”や“コト”を Connect し、効率的な新しいワークスタイルを実現します。15 グループまで利用可能な無料プラン、社内外ネットワークを作成して利用できる有料プランから選べます。Web ブラウザからの利用のほか、iOS/Android に対応したモバイルアプリから利用できます。



■Zoho Connect サービスサイト URL : <https://www.zoho.com/jp/connect>

■Zoho Connect 活用イメージ動画 : https://youtu.be/-pVlcunuH_8

■会社概要 URL: <http://www.zoho.co.jp>

ゾーホージャパン株式会社は、ワールドワイドで事業を展開する Zoho Corporation Pvt Ltd. (本社 : インド タミル・ナドゥ州チエンナイ CEO : Sridhar Vembu) が開発/製造したネットワーク管理開発ツールや企業向け IT 運用管理ツール、企業向けクラウドサービスを日本市場に提供すると同時に関連するサポート、コンサルティングなども提供しています。企業向け IT 運用管理ツール群「ManageEngine」は、世界 12 万社を超える顧客実績を誇り、国内でも販売本数を伸ばしています。「ManageEngine」は、ネットワーク管理の OEM 市場でスタンダードとして認知されてきたネットワーク管理開発ツール「WebNMS」のノウハウや経験を生かして開発されたものです。また、業務改善/生産性向上を支援する企業向けクラウドサービス群「Zoho」は、世界で 3,500 万人を超えるユーザーに利用されています。国内では「Zoho CRM」を中心にユーザー数を増やしており、40 種類以上の業務アプリケーションを 1 セットで利用できる「Zoho One」の提供も始まっています。

なお、ゾーホージャパンは2017年4月、「コールセンターの設置」、「テレワーク推進による働き方改革」、「地方創生（雇用促進・女性活躍）」の3つの目的のもと、元駐在所を町から借り受け、「川根本町サテライトオフィス」を開設しました。現在、川根本町サテライトオフィスでは、シングルファザー、シングルマザーの方の採用を積極的に行っています。

ゾーホージャパン（経営企画特設サイト）：<https://insidezj.zohosites.com/>

川根本町サテライトオフィスについて：

〒428-0414 静岡県榛原郡川根本町東藤川 1013-1

紹介動画：<https://youtu.be/nnX1SiKgdMM>

紹介ブログ：<http://bit.ly/2l1hH5V>

採用について：<http://bit.ly/2rguJLo>

＜本件に関するお問い合わせ先＞

ゾーホージャパン広報事務局 担当:原田（はらだ）

TEL：03-5411-0066 FAX：03-3401-7788

携帯：080-3121-4241 メール：pr@netamoto.co.jp

文書番号：ZJMR180906101